

【背景と目指す姿】

- 塩野谷農業協同組合ねぎ部会(氏家支部)は生産者11名、栽培面積6.35ha、販売額20,700千円の産地である。**生産者の多くは秋冬ねぎ作付け50a未満と小規模であるため、出荷量が少ないのが弱点**である。
- 一方で、機械化体系の強化や、毎年増えている新規栽培者を中心に周年栽培への取り組みや販路拡大への意向も強い。
- そこで、新規栽培者が導入しやすい機械化体系の整備、既存生産者を含めた技術向上、出荷調整作業の省力化(共同選果場設置検討含む)、新たな販路確保のための食品企業等との契約取引拡大等に取り組み、これまでの秋冬ねぎ中心の産地から、周年出荷ができる産地化を目指す。**

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):6.35ha

⇒ 目標(令和2(2020)年度):12.5ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者確保のための各種取組みを広く周知 ・町と連携した「人・農地プラン」に基づく流動化調整と排水性のよいほ場の選定 ・排水性不良ほ場の改善技術対策を周知し、対策実施
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機械装備を充実させ、規模拡大志向農家を機械化一貫体系モデル経営体として育成 ・スケールメリットを最大限生かせる秋冬作以外の作型との展示実証と機械化による低コスト技術実証 ・シルバー人材センターへの求人募集等、統一部会、町、関係機関と連携した雇用確保
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大のため食品企業との情報交換会の実施や県マッチング支援事業等の活用による新たな販路確保 ・地域内の学校給食への安定した出荷体制の構築 ・加工・業務向け契約販売取組み先進事例調査



写真上 自作機械を使った土入れ実演会の様子
写真下 産地のねぎ